

# …いろいろな人にインタビュー…

当事業団に携わっていただいている皆さまのもとにお邪魔し、普段は思うように聞けない、事業団との関わりや事業団への思い等を伺いました。

インタビューする我々が、新たに気づく事業団の存在意義や今後期待いただく点などを聞け、これからの事業団へエールをいただける貴重な時間となりました。

インタビューにご協力いただきました皆様には、コロナ禍ではありましたが、万全の感染予防対策をして対応いただき、誠にありがとうございます。

では、この後のページをどうぞご覧ください。

## …インタビューをさせていただいた皆さま…

### ●事業団で働く職員

森岡福子さん

### ●事業団で働く職員のご家族

岸本勝久さん 文代さん

### ●企業で働く就労移行の卒業生

佐藤紗綾香さん

### ●地域の関係機関

原田和明さん

大阪育成会相談センター 所長

支援センターい～な相談支援室（みのお分室）室長

### ●障害者雇用を取り組む法人（企業）

医療法人神明会 ラ・アケソニア

# 森岡福子さん

## Profile

昭和39年（1964年）1月生まれ。  
 平成元年（1989年）3月より現在の事業団の前身となる  
 箕面市障害者事業団モデル事業推進協会の喫茶るうぶ  
 メイプルホール店の勤務を経て、事業団発足と同じ平  
 成2年6月1日入社。上記メイプルホール店、教育セン  
 ター店の勤務を経て、平成8年（1996年）より喫茶るう  
 ぶライフプラザ店で勤務。

—— まず事業団に入社する前のことからお聞かせ  
 いただけますか？

箕面小に4年間と萱野東小に2年間通ってから、二中  
 の支援学級に通ったのちに今の豊中支援学校を卒業し  
 てその後、明光学園で5年間、あかつき園を経て今です。

## 自分にありがとう！

—— 支援学校から就職に向けた体験等には行かれましたか？

縫製の会社に2週間実習に行くことになってたんですけど、私だけ1週間でアウトになってしまっ

—— それはなぜですか？

てんかん発作ばかり起こしていたから。それで色々探してもらって、明光が良いのではないかと  
 なりました。

—— そこからなぜあかつきに移ったのですか？

明光でも就職先を探してくれたけど、全部ダメでした。  
 3~4社ぐらい。結局あかつきに行くことになったけど、  
 当時はあかつきて何？って感じでした。

—— あかつきには何年居ました？

よく覚えていないですけど、入って1年半後ぐらいに喫茶  
 メイプルの実習を覚えてもらった気がします。

—— 喫茶店での実習を聞いた時はどう思いましたか？

行った時に飲み物あるなとか思っていましたけど、その場  
 所が「喫茶店」と呼ばれてる事も知らなかった。

—— 実習の話聞いた時すぐに行ってみようと思  
 いましたか？

なんかわからないけどとりあえず言われるから行こうと。  
 あかんかったらあかんで良いじゃんって。

—— 実習を沢山しているから出てくる考え方ですかね。

たぶん。初めての实習だったら絶対に無理でした。



—— 実際に働いてみてどうでした？

初めての仕事で不安で心配でちゃんと出来るかなと思いました。  
 でもお客さんや色々な人の応援や励ましで出来るようになりました。

—— こんなミスしちゃったとかありますか？

たくさんありすぎて（笑）

—— 覚えるのに苦労したものはありますか？

メニュー覚えるのが大変でした。当時は注文を伝票に手書きで書い  
 ていたのですが、家に帰って大学ノートに書いて練習してました。  
 100冊ぐらいになりました。覚えないと仕事にならないですから。

—— 辞めたいとかは思ったことありますか？

何回かあります。教育センター店に移る時に担当の職員に伝えた  
 こともありました。その担当の職員に「辞めたいなら辞めて良いよ。  
 他に入りたい人たくさんいるから。」って言われた時はクソーって思って続けることにしました。

—— 話は変わりますが、今は一人暮らししていますが、その経緯を教えてください。

18歳の時に一人暮らしがしたかったのだけど、親に反対されて出来なかった事があって、その後通勤寮に  
 2年間行ったあとにGHに入ることになったんですけど、GHを出ることになったので、通勤寮の時の職員さん  
 と一緒に家を探してもらいました。

—— 18歳の時の夢が叶ったんですね。自炊したりはしないですか？

しようと思ってましたけど、全然違う方向にいつちゃってます（笑）

—— 入社した当初の自分に今の自分から言いたいことは？

自分にありがとう！こんなに続いているよ。

—— こんなに長く働くと思ってましたか？

思ってなかった。せめて10年ぐらいで辞めるやろなって（笑）

—— 事業団での一番の思い出はなんですか？

色々あるけれど、1番の思い出はみんなと旅行に行った飛騨高山です。田んぼがあったり山道があったり  
 好きな風景でした。

—— 長く働くと退職していく仲間もいると思うのですが、印象に残ってる人はいますか？

一人います。働く前から、箕面小からの知り合いです。学年では1つ上でした。支援学校で再会してあかつ  
 き園で一緒になって一緒に事業団に入りました。

—— それは思い入れが強いんですね。辞めると聞いた時はどうでしたか？

ショックと言うかケンカ友達が居なくなった感じ。同期というよりは、  
 昔からの知り合いがという感じで相棒みたいな感じ。辞める時も、  
 「しゃーないな私もいつかは病気になるんだろうな」って感じでした。

—— 最後に伝えたいことはありますか？

小さなことからコツコツと。とりあえずやってみたら良いと思います。

「なに事もまずはやってみる」との前向きな思いのもと、設立以来30年  
 間様々な苦労を乗り越えて現在まで働き続けてこられたことに、改めての  
 敬服いたしました。森岡さんが定年を迎えるまであと数年ですが、最後ま  
 で、一緒に働きたいと思うインタビューとなりました。



平成6年ライブラ祭り時の森岡さん



## 職員の家族から

事業団職員の岸本和子さんのご両親

# 岸本勝久さん・文代さん

### Profile

事業団職員の岸本和子さんのご両親。  
箕面手をつなぐ親の会にて事業団設立にも尽力していただく。  
平成12年（2000年）1月、和子さん事業団に入職。  
右の写真はインタビュー時の自宅のアトリエにて。



—— まずは、和子さんの幼少期のお話をお聞かせいただけますか？

3歳の時に神戸のまるやま学園に通っていて、その後に旦那の転勤で奈良の幼稚園に行ってから、奈良の明日香養護学校に通わせてました。

1年生の11月に箕面に来ることになり、市役所の紹介で豊中養護学校に行くことになりました。そこで高等部までお世話になりました。

—— 子育てで苦労したことはありますか？

夫婦だけでは大変だったと思います。阪大生に下宿してもらっていたのですが、その子たちの存在は大きかったです。色々ともってもらいました。娘（和子）のこともあり、特に息子（和子さんの弟）は良く見てもらいました。当時の下宿生とは今も交流があるんですよ。※左下の写真は下宿生のご招待で行った下呂温泉

—— 高等部を卒業してからはどうしたのですか？

親の会で活動をしていたので、すぐにでも就職してほしいとは思っていたのですが、あかつき園（当時通所授産施設）に行くことになりました。その後も市役所の採用試験を受けたりしてました。入った時はあかつき園にずっと通えると思ってましたけど。

—— グループホーム（以下GH）の立ち上げに関わっておられたと伺いました。

当時は市役所の人に色々助けてもらいました。「GHは老人の為に作るってなってるけど、老人だけとはなっていないから障害者でも作れるよ」って言ってくれて作った部分があります。役所の応援があったから出来たと思っています。

—— 和子さんが事業団に採用されたのは30歳の時でしたね。

9団体ぐらいから応募があったと思います。ただ受かるとは思っていませんでした。言語も出ないですし、身体障害も軽いとはいえありますから。GHから通勤出来ることも評価されたのかなと思います。



—— 応募するのに迷いはありませんでしたか？

全然。本人も乗り気で。

ただ、その後に事業団で当時販売していた植物を見てあまり良いものとは見えなくて（笑）

その時は大丈夫かなど不安になったのも覚えてます。

—— その不安はどこで解消されましたか？

いつの間にか慣れた感じですね。給料袋を持って帰ってきたときに思いましたね。作業をしてる所はしょっちゅう覗きに行きました（笑）

あと市民の方にも「和子ちゃんあそこで作業してたよ。とか声をかけてもらえたりして、凄く嬉しいですね。

—— 当時の給料袋を残しているのですね。

本人が嬉しそうに持って帰ってきましたし。いつの日か給料を現金から振込に変更してて、周りに取られると思ったのか、「親に相談しないで、勝手に振込に変えてきてる！」って（笑）今もお金を降ろす時も親には頼まず、一緒に行って確認するぐらいキッチリしてますね。「自分の給料」って意識は持っているのだと思います。

—— 和子さんしっかり者ですね。

喋れない分、人のことを見ているんじゃないですかね。家から出て色々知ってきたみたい。携帯にメモをしたりとか。親が出来ないのに（笑）

—— 家でGHとか仕事の愚痴を言ったりはしませんか？

人の悪口は一切言わない。嫌いって言わそうと「あの子嫌いでしょ？」って言っても全然言わない（笑）でもコロナは嫌いみたい。

—— 家族で出かけたりしますか？

今は道の駅のスタンプラリーを回ってます。昔は海外を含め色々なところに行きましたけど、飛行機のトイレが狭いから海外とか嫌いみたいで。車と温泉が好きですね。

—— これからはどんな人生を送ってほしいですか？

とにかく健康で、仲間と一緒に暮らしていけたら良いなと思っています。今は和子より若い子と一緒に住んでいるのでこのままでいられたらなど。

—— 最後に事業団に期待することはありますか？

最近少し元気が無い気がします。今後も魅力的な事業団でいてくれたら良いなと思います。



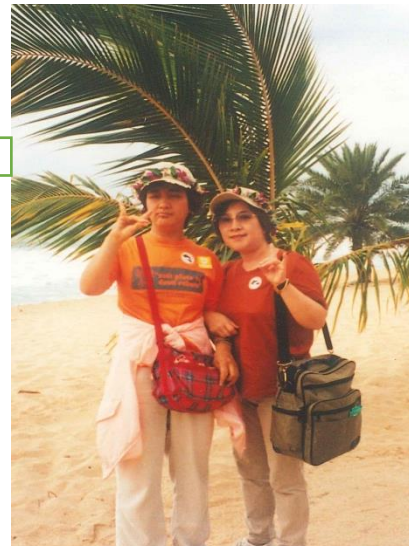
←成人式の時写真  
「キレイに白で合わせた装いなのに、色んな所に座るから汚れちゃって（笑）」

ハワイ旅行での一幕→

お二人にすごく明るくお話をさせていただいてとても楽しいインタビューでした。

付かず離れずの距離での親の立場と家族の見守りがあったからこそ、就労継続だと感じました。

最後にいただいたエールを受け止め、更に魅力ある事業団を目指し頑張ってきたと決意したインタビューでした。



# 佐藤紗綾香さん

## Profile

(株) エキ・リテール・サービス阪急阪神 勤務  
箕面市障害者雇用支援センター 卒業  
豊能北障害者就業・生活支援センター 登録者

趣味：姪っ子に会うこと

—— 本日はお時間いただきありがとうございます。先程、写真撮影をしている時に、お客さんから吹田行き電車の発車ホームを聞かれた際に、すぐに答えられていたのがすごく印象的でした。

場所柄よくホームの場所は聞かれます。始めは他の人に聞いていたのですが、今はすぐに答えることが出来ます。覚えようと思って覚えました。

—— 凄いですね。では改めてインタビューを始めたいと思います。簡単に経歴と事業団と関わるようになったきっかけを教えてください。

箕面養護学校の高等部を卒業してから、大阪INA職業支援センターから紹介を受けたところで働いていました。そこを退職して次の就職先を探すのにずっと家にいるのも嫌だなと思っていたときに、あかつき園の人に箕面市障害者雇用支援センター（以下こよせん）を紹介してもらって通所することになりました。知り合いも行っていたので、存在は知っていました。

—— 利用してみてどうでしたか？

最初の1週間はメンタル的にしんどかったですね。新しい環境でしたし、身体を動かすこともしていなかった。体操もあるんだ、身体絞ろうって。（笑）

—— こよせんの利用で印象に残っていることはありますか？

わからないことは「聞く」ということは学びました。

—— こよせんに通って良かったですか？

通って良かったです。色々出来なかった作業が出来るようになりましたし、苦手なことを頑張るといっても良い経験でした。仲間も増えました。ほとんど休んだ記憶もないです。今の仕事も体調不良がなければ休まず通勤していますのでその経験が生かされてるのかも。

—— 佐藤さんは豊能北障害者就業・生活支援センター（以下なかぼつ）に登録しています。きっかけを教えてください。

案内が届いてお母さんと説明会に行ったのがきっかけです。その時悩みはなかったのですが、専門のところに相談できるのは良いなと思いました。

—— なかぼつはどんな存在ですか？

仕事に疲れたらワイワイ話をしたり出来る場所です。サロンも楽しみです。

—— またこんなイベントして欲しいとかありますか？

昔BBQやったのが楽しくてまたやってほしいです。ただ前は教学の森だったので、あそこは坂がキツイので別の場所が良いかな。（笑）

—— では、今の職場について伺います。就職したての頃はいかがでしたか？

20代はいっぱいいっぱいでした。この仕事に慣れるまでは。今は大丈夫です。

—— 慣れるまでに、どれぐらいかかりましたか。

覚えていないですね。2～3年はいっぱいいっぱいでした。

—— 今気をつけていることは？

物を割らないように意識しています。

—— 店舗では従業員さんの入れ替りはあると思いますが。

色々大変なこともありますけど、やり過ごすようになりました。大変なことがあったらストレス発散でピアノを弾くことにしています。

—— なぜここまで続けて働くことが出来たと思いますか？

なんでですかね。毎日淡々とこなしていたらこれだけ続いたって感じです

—— では暮らしのことについて伺います。今はグループホーム（以下GH）にお住まいですね。どのような生活をしていますか？

高等部の時に自活訓練（当時あった、GH利用の準備をする箕面市独自の制度）を経験してから、GHで暮らしています。土日祝だけ実家に帰っています。こよせんを利用している時はすでにGHから通っています。

—— 一人暮らしをしたいとは思いませんか？

GHの担当者から一人暮らしを勧められているんですけど、断ってます。料理をするのは好きなんですけど、毎日のはたかたくないで。

—— コロナが収束したら何がしたいですか？

また家族と旅行に行きたいですね。

—— 就職したての昔の自分に伝えたいことありますか？

自分就職できたな～って。

—— 今後の働く人生をどうしたいと思っていますか？

今の店ではすごく信頼してもらっているんで、今後も働けていたら良いなって思っています。

—— では最後に、これから働こうと考えている人たちへメッセージをお願いします。

みんながそれぞれに合わせた就職を目指せたら良いと思います。個人的には働くことはすごく大事だと思っています。ただ、しんどい時は「しんどい」と言えるようになったら良いですね。

実は佐藤さんの支援に以前携わり、今回のインタビューを通じて、佐藤さんが仕事に対して、程よく力が抜け、辛さとも上手くやり過ごしている姿勢になっていると感じ、とても嬉しく思ったのです。無理は続かないけど、程よくだなあ～と共感するものが多いお話しとなりました。インタビューにご協力いただきました佐藤さん並びに、勤務先の皆さまにもお礼申し上げます。ありがとうございました。



# 原田和明さん

Profile

大阪育成会相談センター所長兼みのお分室長  
(支援センターい〜な 相談支援室)  
司法ソーシャルワーク研究所 理事  
はらだソーシャルワーカー事務所  
(権利擁護&司法ソーシャルワーク研究所) 代表

—— お忙しいところお時間をいただきありがとうございます。簡単に経歴を話していただいてもよろしいですか？

現在は育成会でスーパーバイザー（以下SV）も含めた相談支援の仕事を中心にさせてもらっています。法人の中央では権利擁護も含めた相談や障がい児早期療育事業の事務、本人活動（全育連本人活動支援委員会事務局、大阪育成会ともだちの会）等に加え、相談全体のSVをするときもあります。どちらかというとなんと法人としての相談関係の外向きの仕事を担当しています。育成会に来る前は5年ほど専門学校の教員をしていました。その前は西宮の施設で勤めていました。育成会は5年ぐらいですね。

—— 事業団を知ったのはいつですか？

箕面に来てからなので、5年ぐらい前ですかね。就労関係のことをやっているのかなくて感じ。

—— 箕面にゆかりはありますか？

結構知り合いが住んでいたりしますね、事業団で言えば下司（げし※）さんって言わないといかん（笑）僕らは下司「君」なんだけど、彼が学生の時にボランティアで施設に来てくれた時から知っていて、だから一番ビックリしたのは彼が事業団に所属してるって知って「えええ」って（笑）

（※）下司は現事業団副局長

—— 接点が出来てからの事業団のイメージは？

通所や豊能北障害者就業・生活支援センター（以下なかぼつ）だけでなく、結構重度の人も働いているんだなと

—— 昭和の頃から障害者問題に向き合ってきた箕面という場所ですが、今はどうですか？

箕面は先進的なことをやっていたイメージ。制度が何も無い時から取り組んでいたからね、あれは真似出来ない。

—— 長くおられた西宮と比べたらどうですか？

一番ビックリしたのは就労に関する部会が箕面の自立支援協議会にない。情報交換会としてはあるが、「働く」「暮らす」はセットなのになんで「働く」の部分はないのか。西宮は自立支援協議会の部会で支援機関との横の繋がりができている。

自立支援法に移って、単体ではなく連携して「働く」「暮らす」を支えることになって、支援費制度からグループホーム（以下GH）が整備されてきて、そしてGHだけじゃない暮らしの変化というものもあるのかなと、GHが終の住処なのかということは考えていきたい。

—— 事業団で働いている重度障害者の中には一人暮らしをしていて、夜間や休日の身体介助（重度訪問介護）や入浴サービス等を受けている職員がいます。

それが本来の姿です。

—— 西宮のように重度の人が希望すれば一人暮らしをできるようにするにはどうすれば良いと思いますか？

支援体制を確立しないと。一人暮らしをしてもらうための支援体制が薄い。そこをもうちょっと担える事業所が増えないと、そしてもっと障害を持っている人が意見を言えるようにならないと。

—— 箕面は奥ゆかしいのですかね。

私が担当していた地域は良く言えば活発、悪く言えばガラが悪い（笑）だから障害者も言いたいことを言う人が多かった。行政も障害者の意見をもっとくみ取ってほしい、同じ方向を向かないと。

—— 色んな経験をされてる中で、特に印象に残っているケースについて、伺えますか？

失敗は多いな〜。自分の子どもをあやめかけたという精神障害の方と服役中から手紙や面会などでやりとりをしていて未だにやりとりがあります。ときどき子どもの写真を送ってくれます。最終目標はもう一回子どもと一緒に住むことなんだけど、まだそこには到達していない状況。でもそんな報告をしてくれるのは凄く嬉しいかな。

裁判の証言にも立ちました。その人との関りから、連携をしっかりしないといけないということも教えてもらった。その人はもちろん福祉には繋がっていましたが、子育て相談にも行っていて、本人も通所サービスを利用していたのに関わらず事件が起こったということは、福祉の繋がりというのが希薄だったんだろうなと。

子どもがADHDで薬を飲まさないといけないのに、その薬を子どもが吐いてしまうのがストレスでそのような事案を起こしてしまったみたい。それは福祉が連携していたら防げた気がして。この件は親の立場でもある本人の統合失調症に着目して子育ての支援をしなければいけなかった。これは福祉サイドの失態だとずっと思っています。考えさせられる事案です。

—— 最後に、事業団では就労支援だけでなく高齢化する障害者職員とも向き合っています。今の事業団だから地域で担える等、期待いただくことについて伺いたいです。

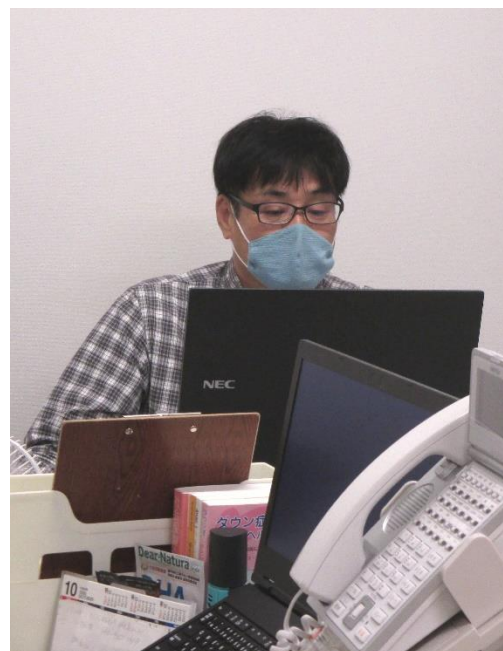
就労継続B型も色々あるし、就労継続B型の中にも差は凄くあるかもしれないので、自主製品のまとめとか仕事受注のまとめとか出来たら良いんじゃないかな。

就労支援だけではない「働くことを考える」そんな仕掛けを事業団で作って時代に合わせた知恵出しが出来たら良いかなと思いますね。箕面だからこそまだまだ発展出来ることもあると思いますので期待していきたいです。

「働く」「暮らす」は地域全体で支えるもの。障害者の地域での営みを、より豊かにするためには、育成会さんはじめ各関係機関の皆さまと知恵を出していくことが大切であること改めて気付かされました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



おじゃまして頂いた「い〜な」さん、とてもキレイな建物でした。



# ラ・アケソニア

## Profile

所在地：箕面市白島  
医療法人神明会が運営しており平成17年（2005年）2月に開設 神明会の中で最初に出来た一番大きな施設で法人の中核を担う施設となっている。



—— お忙しいところお時間をいただきありがとうございます。まずラ・アケソニアではどのようなサービスを提供しているのですか？

宮本副施設長（以下：宮）：介護老人保健施設（以下老健）と通所リハビリテーションと認知症対応型共同生活介護（グループホーム）の3つを運営しています。特に中心となっている老健ではリハビリ施設になっているのでリハビリに力を入れています。

老健の中でも在宅復帰支援の類型で1番上の「超強化型」ということで、在宅復帰に力を入れています。また自宅に戻られてからは、通所リハビリテーションとか老健のショートステイや訪問リハビリを通し、リハビリを継続してフォローしていくサービスをしています。

—— 宮本さんは長く看護師として勤務され昨年11月に副施設長になられたそうですが、障害者の雇用は気がついたら進んでいたという感じでしょうか？

宮：実際に障害者雇用の職場定着に尽力したのが渋谷です。

—— 関わる事業団として障害者の雇用はスムーズに定着しているイメージですか？

渋谷介護長（以下：渋谷）：最初は現場の介護士でしたが、フロアにクリーンスタッフとして障害者職員が来られ、そこでの業務を自身が担当するようになってからの関わりになります。初めは総務が障害者職員の対応を担当していたので、慣れてきてから私もサポートするような形でした。

—— 現在4名の障害者職員が所属していますね。

宮：介護補助が2名とクリーンスタッフが2名ですね

—— 障害者雇用を継続する要因に「雇用率の達成」はあると思うのですが、ラ・アケソニアでは障害者の雇用率以上の雇用をしていると思うのですが、法人として意識はありますか？

宮：もちろん雇用率は意識していますが、介護保険の事業でも障害者雇用しやすい、しにくいはあると思います。老健は資格の有り無しに関係なく雇用が出来るので。



インタビューに対応してくださった  
左：渋谷介護長 右：宮本副施設長

—— 他の事業所との違いを感じたりしますか？

宮：アケソニアで障害者雇用が上手くいったので、高槻で運営している老健でも1名雇用しているのですが、職場に定着してくださっています。

—— 雇用する障害者職員が定着する要因ってありますか？

渋谷：最初は掃除の仕事を1から教えるというわけではなく、導入部分は貴事業団の職員と一緒に指導してもらえたのが凄く大きかったです。先に我々と事業団で仕事内容のすり合わせをして、それに基づいて結構な期間一緒に指導してもらえたので、そこで出来ている点や不足している点の整理ができたので、その土台に基づいて関わる事が出来たのが大きかったです。最初から介護スタッフが付きながら指導するだけではなかなか厳しかったんじゃないかと思います。

貴事業団の方による指導期間が終了した後も手順書を常備して確認出来る様にしました。決められた時間内に終了する為にタオルの大きさやたたみ方を順次改善しました。今は手順書無しで作業できています。

—— 障害者職員が働いていることで、新しく勤務する職員に戸惑い等はありませんか？

渋谷：業務をハッキリと分けているので「この人、障害を持っているから」というような説明もすることなく、「この人はこの担当の仕事をしています。」くらいの説明でみなさんわかって仕事してくださっています。

—— 従業員さんとのやり取り以外にご利用者やご家族との間で、なにかあったりしましたか？

渋谷：介護補助は障害者スタッフ以外も担当しており、直接ご利用者やご家族と関わるのは、健常者のスタッフ。利用者から質問等されても健常者スタッフで対応できるように連携が出来るので、そこでのトラブルは聞いたことないですね

—— すごく自然なかたちで上手くいっているんですね。

渋谷：一緒に仕事をするスタッフが「この仕事ならできそう」と思い、障害者スタッフに任せたりもありました。中には思うように行かないこともあり、そこから上手くいかない要因は何かを確認し、要因を解消した方法で取り組むなど、試行錯誤を繰り返した結果だと思っています。

—— 渋谷さんの存在がすごく大きいような気がします。

渋谷：最初から介護補助という職種はなく、介護補助の仕事も全て介護士がやっていたので、利用者さんとの関わりを持つ時間がなかなか持てなく、今の介護補助という職種が出来ました。

今、介護補助をしてくださっている障害者職員は介護の資格は持っているのですが、介護士と同じ仕事を求めることは負担になっているので、介護補助という職種で頑張ってもらうことによって、介護士の職務軽減という役割で頑張ってもらっています。



—— 最後に、事業団へコメントいただければ。

宮：貴事業団を通して来ていただくと凄く安心感があります。こちらだけで背負ってるという感じがしないので。ありがたい存在です。

障害者の雇用が広がるためには、渋谷介護長のよう  
に、障害者の得意や苦手なことを把握し、適切なサ  
ポートをしてくれる現場の方の存在は不可欠です。  
そのような障害者が働ける場を沢山増やせるように、  
事業団も地道に支援して来たと考えています。